

取締役の構成が銀行の貸出に与える影響 —株式会社化以降の中国銀行業に関する分析

一橋大学大学院 特別研修生 郎壺

中国経済全体の高成長が中国系銀行躍進の重要な原因だが、中国系銀行が現在国際的に重要な地位を占めるに至った根本的な原因は金融制度改革（restructuring）であると思われる。銀行の株式会社化（corporatisation）の結果、2004年から2014年の期間には、ほとんどの銀行が株式会社形態で経営を行うに至った。そして、取締役会構成の変化が銀行の業績にどのような影響を与えるかという新たな問題が生じた。本研究は、株式会社化の後、銀行収益の最大な源泉である貸出構成に、取締役の構成が与える影響を検証したい。

本研究は、まずファクトファインディングを通じて、20種類銀行の貸出から六項目を選出した。2006年から2014年の期間に、これら六種類への貸出は、平均的に36銀行の貸出の八割超を占めている。次は、資本収益率、資産収益率と不良債権比率などの業績指標とこれら六種類の貸出の相関関係を検証する。そして、2006年から2014年の期間における36行のパネルデータを用いて、政府系取締役比率が貸出構成に与える影響を検証する。

検証の結果、建築業への貸出は、パネル推定方法で政府系取締役比率と有意な正の相関を持つことが検出された。頑健性検証について、四大銀行を除いて、仮説を検証する結果、建築業への貸出は、政府系取締役比率と有意な正の相関を持つことも検出された。

検証結果によれば、取締役構成が株式会社の形態で経営を行う銀行の貸出構成にある程度の影響を与える。政府系取締役は、貸出構成を通じて収益率に有利な影響を与えている。政府系取締役が銀行業績に与える影響は、株式会社化の成果とはいえ、現時点中国の金融システムに存在している欠点を利用して利益を得られるものでもある。